



22122322



JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Monday 14 May 2012 (afternoon)
Lundi 14 mai 2012 (après-midi)
Lunes 14 de mayo de 2012 (tarde)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for Paper 1.
- Answer the questions in the Question and Answer Booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'Épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la Prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

問題 A

「和菓子^{がし}の歴史」展
とら屋ギャラリー（東京都みなと区）で

「まんじゅう」や「ようかん」など、私達の身近な和菓子^{がし}の古代から現代までをしょうかいする「和菓子^{がし}の歴史」展が、とら屋ギャラリーで開かれています。会場では、むかしの和菓子^{がし}の再現など、100点以上展示しています。「ようかん」は、中国ではひつじの肉を入れた汁物^{しるもの}でした。今私達が思うすがたになったのは、江戸時代^{えど}（1603～1868）になってからです。このように、私達が今楽しんでいる和菓子^{がし}には、意外な由来があります。会場でたしかめてみませんか。

てんじ
展示の内容



- ① 外国から来たお菓子^{がし}
中国から伝わってきた「まんじゅう」や、ポルトガルから伝わってきた「カステラ」など、和菓子^{がし}の発展にえいきょうをあたえた菓子^{がし}を復元します。
- ② 江戸時代^{えど}に生まれた美しい和菓子^{がし}
大名の注文におうじて作られたごうかなお菓子^{がし}を展示します。
- ③ 一般の人の和菓子^{がし}
江戸時代^{えど}の人が楽しんだお菓子^{がし}をしょうかいします。
- ④ 和と洋のコラボレーション
明治時代（1868～1912）に、ヨーロッパから来た洋菓子^{がし}のえいきょうで、「あんぱん」などが作られました。当時は高かったバナナなどを使ったお菓子^{がし}もあります。
- ⑤ 戦争時代のお菓子^{がし}
少ない配給物を使って作った代用菓子^{がし}などを取り上げます。



期間 9月20日まで。無休。10:00～17:30
交通 東京メトロ赤坂見附駅^{あかさかみつけ}から徒歩7分
入場料 無料

さんこう
参考：http://www.toraya-group.co.jp (2011年9月5日)

問題 B



ゆめは かなえるために ある
こうすけ
 北島康介選手が「一日教師」



- ① 北京オリンピックの競泳で二大会連続で二つの金メダル (100m、200m) を取った北島こうすけ康介選手が「一日教師」として千葉県ちばの学校ほうもんを訪問しました。そして、生徒と将来のしょうらい ゆめについて話し合ったり、水泳のコーチをしたりしました。きびしいトレーニングをつみ重ねてメダルを取った「北島先生」の話に、生徒たちは自分のゆめを重ねました。
- ② 一時間目の授業は ゆめについてでした。北島選手は小学校 6 年生のとき、「オリンピックで金メダルを取る。」と大きな ゆめを持ちました。北島選手がその事を話すと、生徒たちから、「すごい、すごい。」と こえが上がりました。「ゆめは かなえるために あるんだよ。だから、僕はつらくても毎日の つみ重ねを大切にし、投げ出すことはしなかった。」と北島選手は話しました。
- ③ 2004 年のアテネ・オリンピックで金メダルを取った直後、体も心も疲れて、何もやる気が無くなり、一時は引退いんたいも考えたそうです。でも、小さい ころからの ゆめを再び実現させようと思い直しました。
- ④ 生徒たちも自分の ゆめを話しました。蜂谷君は「車や工場が出す、汚れた空気をきれいにする機械を発明したい。そのために、数学や科学の勉強をがんばっている。」と言いました。豊蔵君は「外国の強いサッカーチームに入って、得点王とくてんおうになりたい。」と言いました。北島選手は「大きな ゆめを持つのは すばらしい。あきらめないで がんばることが何よりも大切。」とアドバイスをしました。
- ⑤ 2 時間目の授業はプールで行われました。ここでも生徒たちは あきらめない気持ちを教わりました。しばらく いっしょに水泳の練習をした後、生徒対北島選手で おもしろい水泳対決をしました。生徒 4 人がクロールで 25m ずつリレーし、北島選手が一人、平泳ぎたいこうで対抗します。最後はタッチの差で生徒たちが勝ちました。北島選手は「すいません、なんも言えねえ。」と、北京オリンピックで口にしたのと同じ言葉で くやしがり、「ぼくが負けたのは、みんなが がんばったから。これからも、いろいろな事にチャレンジして。」と よびかけました。

さんこう
 参考：2008 年 9 月 6 日づけ朝日小学生新聞

20 彼ははつきり覚えている。三重子はこの前会った時にはチューインガムばかりしゃぶっていた。そのまた前に会った時もオペラの歌ばかり歌っていた。ことに彼をおどろかせたのは一月前ほどに会った三重子である。三重子はさんざんにふざけたあげく、フットボールとしようしながら、まくらを天井へけり上げたりした。

うで時計は二時十五分である。中村はためいきをもらしながら、爬虫類の標本室へ引き返した。が、三重子はどこにも見えない。〈中略〉

25 二時二十分！もう十分待ちさえすればいい。彼は帰りたさをこらえたまま、標本室の中を歩き回った。熱帯の森林を失ったへびの標本はみょうにはかなさをただよわせている。これはあるいはしようちようかもしれない。いつか情熱を失った彼の恋愛のしようちようかもしれない。彼は三重子に忠実だったが、三重子は半年の間に少しも見知らぬ不良少女になった。彼の情熱を失ったのは全然三重子の責任である。〈中略〉

30 中村は二時半になるが早い、爬虫類の標本室を出ようとした。しかし戸口へ来ないうちにくるりとくつのかかどを返した。三重子はあるいはひと足違いにこの部屋へ入って来るかもしれない。それでは三重子に気のどくである。気のどく？——いや、気のどくではない。彼は三重子に同情するよりも彼自身の義務感になやまされている。この義務感を安ずるためには、もう十分ばかり待たなければならぬ。なに、三重子は必ず来ない。待っても待たなくても今日の午後はゆかいにひとりくらせるはずである。

35 爬虫類の標本室は今も相変わらずひっそりしている。看守さえいまだに回ってこない。その中にただうすら寒い防虫剤のにおいばかりただよっている。中村はだんだん彼自身にあるいらだたしさを感ず出した。三重子はひつきよう不良少女である。が、彼の恋愛は全然冷え切っていないのかもしれない。さもなければ彼はとうのむかしに博物館の外を歩いていたのであろう。もともと情熱は失ったにもせよ、欲望は残っているはずである。欲望？——しかし、欲望ではない。彼は今になって見ると、たしかに三重子を愛している。

注1 爬虫類 へび、かめ、ワニなどの動物。

注2 標本室 博物館の部屋。勉強や研究に使う見本がある。

問題 C

早春

あくたがわりゆうのすけ
芥川龍之介 一九二五

5 大学生の中村はうすい春のオーバーコートの下に彼自身の体温を感じながら、ほの暗い石の階段を博物館の二階へ登っていった。階段を登りつめた左にあるのは爬虫類(注1)の標本室(注2)である。中村はそこへ入る前に、ちよつと金のうで時計をながめた。うで時計のりはさいわいにもまだ二時になつていない。存外遅れずにすんだものだ。――中村はこう思ううちにも、ほつとすると言うよりはそんなをした気持ちに近いものを感じた。

10 爬虫類の標本室はひっそりしている。看守さえ今日は歩いていない。〈中略〉この爬虫類の標本室はちよつと去年の夏以来、三重子と出合う場所に定められている。これは何も彼らの好みの病的(びやうてき)だつたためではない。ただ人目をさけるためにやむをえずここを選んだのである。公園、カフェ、ステーション――それらはいずれも気の弱い彼らに当惑(とうわく)をあたえるばかりだつた。〈中略〉

15 落ち合う時間は二時である。うで時計のりもいつの間にかちよつと二時をしめしていた。今日も十分と待たせるはずはない。――中村はこう考えながら、爬虫類の標本をながめていった。しかしあいにく、彼の心は少しも喜びにおどつていない。〈中略〉今日の三重子は幸か不幸か全然昨日の三重子ではない。昨日の三重子は――山の手線の電車の中に彼と目礼だけ交換した三重子はいかにもしとやかな女学生だつた。いや、最初に彼といつしよに井の頭公園へ出かけた三重子もまだどこかものやさしいさびしさを おびていたものである。

中村はもう一度うで時計をながめた。うで時計は二時五分過ぎである。彼はちよつとためらつた後、となり合つた鳥類の標本室へ入った。カナリヤ、錦鶏鳥、蜂すずめ、――美しい大小の鳥はガラスごしに彼をながめている。三重子もこういう鳥のように形骸(けいがい)だけを残したまま、たましいの美しさを失つてしまった。

問題 D

子どもエコクラブに集まれ!

持続可能な社会を作るためには、将来のリーダーになる子どもたちが環境を大切に^{かんきょう}する意識^{しやうい}を持ち、環境にやさしい^{かんきょう}くらし^{かんきょう}かたを知ることが必要です。環境省では、平成7年度から「子どもエコクラブ」事業を通じて、子どもたちの地域^{ちいき}の中での主体的な環境^{かんきょう}の学習や活動をサポートしています。



今の環境活動では3Rという言葉が人気ですね。これは英語の「リデュース（減らす）、リサイクル、リユース（再利用）」という言葉から来ていますが、子どもでも色々な活動ができます。例えば、要らなくなった物を使って工作をしたり、アルミかんを集めたりすることは、子どもでもできます。

各クラブの活動内容は自由で、それぞれのクラブの自主性が重んじられます。各クラブに積極的に取りくんでもらうため、子どもエコクラブ全国事務局は全国のクラブの活動実例や情報、各種学習プログラムなどをのせたニュースレターを作ったり、会員手帳を配ったりしています。また、日ごろの活動を発表したり、子どもたちの交流を深めるための全国フェスティバルも開いています。

子どもエコクラブには1グループ数人から30人程度の小中学生が集まれば、だれでもさんかできます。連絡係りとなるサポーター（大人）を決め、近くの市区町村の役所に申しこんでください。

活動にさんかした人のこえ

自然観察：どんぐりの種類の見分けかたや名前の由来などを教わりながら自然観察をしたよ。自然の大きさも実感したよ。

湖の生物の研究：水生生物を採取して観察した。石のうらにも小さな生き物がたくさんいた。楽しい発見があった。



全国フェスティバル：全国から集まった仲間たちと日ごろの活動を発表しあって、一番活発に活動したクラブにはしょうじょうがおくられたよ。環境ほごの知識のチームクイズやポスターのコンクールもおもしろかったよ。たくさんの仲間ができて、うれしかった。

参考：www.env.go.jp/policy/hakusyō (2011年9月5日)